

## 競技に関する連盟特別規則（全軟連）

### 1 種類の異なったボールを使用した場合の処置について

例えば、A号ボールを使用する試合で、B号ボールが使用されたような場合は、発見されるまでに行われたプレイは有効とする。ただし、プレイの進行中に発見されたときは、プレイが落ち着いたときに正規のボールと取り換えるものとする。

### 2 投手が守備についた後の処置について

「同一イニングでは、投手が、一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」（野球規則 5.01(d)原注〔前段〕）は、適用しない。

（可能な例：投手－野手－野手－投手、投手－野手－投手－野手）

### 3 交代したプレーヤーについて

交代して一度退いた選手は、キャッチボールなどの相手のほか、ベースコーチも許される。

### 4 試合に出ているプレーヤーの代走が認められる場合（コーティシーランナー＝臨時代走者）について

審判員は、スピード化を図るため、プレーヤーが負傷などで治療が長引く場合は、相手チームに伝え、試合に出ている9人の中から代走（打順の前位の者、ただし、投手及び捕手を除く）を認めて試合を進行させる。

### 5 最終回の裏、または延長回の裏の決勝点について

三塁走者の得点が決勝点になる場合に、投手が反則投球してプレイが続けられたときは、ボークを優先させて三塁走者の得点を認め、試合を終了する。ただし、打者によって得点した場合はボークとしない。

### 6 ボールデッド中でもアピールが許される場合

ボールデッド中に決勝点があげられた場合、及び降雨などで試合がいったん中断され、その後中止になって勝敗が決するような場合は、ボールデッド中でもアピールが許される。また、試合がいったん中断されて、その後で特別継続試合になる場合は、アピールは持ち越されないから、ボールデッド中でもアピールが許される。

## 7 投手の禁止事項（ボール関連）について

野球規則 6.02(c) 項中の、(4)の「ボールに異物をつけること」および(5)の「どんな方法であってもボールに傷をつけること」は規則どおり実施するが、(1)、(2)、(3)は採用しない。

## 8 かくし球について

走者がいるとき、ボールを持たない投手が、投手板のすぐそばでサインを見るような動作をした場合は、ボールを持たないで投手板についたとみなし、かくし球は無効でボークとなる。

## 9 監督又はコーチ等が投手の所へ行く回数について

- (1) 監督又はコーチ等が一試合に投手の所へ行ける回数は、3回以内とする。なお、延長戦（タイブレーク方式を含む）は、2イニングに1回行くことができる。
- (2) 監督又はコーチ等が、同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、いったとみなされた場合（伝令を使うか、捕手又は他の野手に指示を与えて直接投手の所へ行かせた場合）は、投手は自動的に交代しなければならない。

## 10 守備側のタイムの回数制限

- (1) 捕手又は内野手が、一試合に投手の所へ行ける回数は、3回以内とする。なお、延長戦（タイブレーク方式を含む）となった場合は、2イニングに1回行くことができる。野手（捕手も含む）が投手の所へ行った場合、そこへ監督又はコーチ等が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督又はコーチのみ回数には含まない。
- (2) 監督又はコーチ等がプレーヤーとして出場している場合は、投手の所へ行けば野手としての1度と数えるが、協議があまり長引けば、監督又はコーチ等が投手の所へ1度行ったこととし通告する。

## 11 攻撃側のタイムの回数制限

攻撃側のタイムは、一試合に3回以内とする。なお、延長戦（タイブレーク方式を含む）は、2イニングに1回とする。

## 12 タイムは、1分以内を限度とする。